

## 備忘録ないしは切り抜き帳(その126)

[2020年2月3日(月)]

○昨日の読売新聞が『桜を見る会 公文書の管理がずさん過ぎる』と題する社説を掲載していた。安倍政権寄りの読売新聞でさえ、安倍首相の桜を見る会には問題が多いと見ているようである。以下に論説を転載させて頂きたい。「衆参両院の予算委員会で、首相主催の「桜を見る会」の問題を巡る審議が続いている。政策遂行に支障を来さぬよう、政府は疑念の払拭に努めなければならない。第2次安倍内閣発足後の2013年から招待者が膨れ上がり、安倍首相の後援会関係者が多数招かれていた。内閣府が正式な招待状を送る前に、首相の事務所が後援会関係者に案内状を送っていたことも分かった。首相は陳謝したうえで「推薦すれば招待されるだろうとの安易な推測で作業を進めてしまった」と釈明した。「公私混同」と批判されても仕方あるまい。見過ごせないのは、公文書のずさんな扱いである。公文書管理法は、保存期間1年以上の文書は名称などを記録し、廃棄する際にも記録を残すことを義務づけている。2011~17年度の招待者名簿はこの対象だったが、内閣府は必要な措置を取らなかった。前例踏襲に陥り、ルール違反を重ねた。担当者らの意識の低さは目に余る。政府は2018年度に、名簿の保存期間を1年未満に変更している。個人情報を持ち続けるリスクを避けるため、と説明する。著名人も出席するイベントであり、消すべき個人情報とまで言えるのか。名簿は既に廃棄され、招待者の選定手続きが適正だったかどうか、検証できなくなっている。公文書の適切な作成・保管の重要性を改めて示していよう。政府は今年の桜を見る会の開催を中止し、招待基準や規模を見直す方針だ。名簿の保存期間の延長を検討すべきではないか。安倍内閣の下では、財務省による決裁文書の改ざんや、厚生労働省の毎月勤労統計の不適切な調査もあった。長期政権の緩みが背景にあるとすれば問題だ。行政への信頼を損ないかねない。首相は国会で、公文書管理に関し「政府を挙げてさらなる方策を検討する」と表明した。管理を担う専門人材の育成にも力を入れる考えを示した。改善の方向性は示されている。立法府として、それが着実に実現するか、監視していくということではないか。週明けからは、来年度予算案の本格的な質疑が始まる。100兆円を超える大型予算である。その規模や各施策の妥当性について、十分な検証が求められる。感染が拡大する新型肺炎への対処や不安定な中東情勢への対応など、課題は山積している。政策論議に力を注ぐべきである。」  
☞ 誠に勝手ながら、読売新聞ならではの、と思われる箇所に\_\_\_\_\_を付してみた。「政策遂行に支障を来さぬよう、(もしくは)政策論議に力を注ぐべき」と政策論議を強調するあたりまた、「担当者らの意識の低さ」と安倍首相本人ではなく、担当者の方に責任を転嫁するあたり、さらには「(名簿の廃棄や招待者の選定手続きが)検証できなくなっている」ことをあっさり容認していることなど、他紙とは若干、趣を異にしている。記事を拝見していて、ひとつ良い提案を思いついた。それは、今年の『桜を見る会』を中止するのではなく、昨年と同じことをもう一度やってみればよいのではないか。今ならまだ間に合うのではなからうか。名簿がないからできないとは言わせない。例年、名簿を廃棄してもやってきたのだから…。もしそれをやって戴けるのなら、次元が低く無駄な国会質疑は止めにし、政策論議に専念して頂いてもよろしいのではなからうか。但し、その後で一体何が起こることやら。



写真は2019年11月13日付け朝日新聞より

[2020年2月5日(水)]

○今朝の東京新聞茨城版に掲載されている『<東海第二原発 再考再稼働> (7)原発なき将来を考える時 関東学院大教授、湯浅陽一さん(47)』なる記事を以下に転載させて頂きたい。「日本原子力発電(原電)東海第二原発が立地する東海村の支援を受け、2017年度に財政面から脱原発後の村の将来を研究した。1963年度から2015年度までの村の財政データを分析した。原発の財政効果としては、固定資産税が大きいということがよく言われているが、東海村の場合は原発が古く固定資産税はそれほど多くない。一方で、財政は余裕があり恵まれていることが分かった。村に立地する常陸那珂火力発電所は、2号機が2013年12月に運転を開始し、税収を増やした。現状では東海第二よりも常陸那珂火力の方が税収への影響が大きくなっている。さらに村内には原発のほかに、日本原子力研究開発機構などの原子力研究施設が複数ある。ほかの原発立地自治体と比べれ

ば、税金の中で原発の比率は低いことも明らかになった。以上の点から東海第二については、村の財政の依存度は決して高くないので、再稼働する必要はない。再稼働をしないことで村の状況が極端に悪くなるとは思わない。住民の間では、原発によって村の財政が成り立っているというイメージが強い。原発がなくなれば、村への経済効果がなくなるという意見もあるだろう。だが、東海村のように人口が1万人以上いる自治体は、再稼働をしないで全く影響がないというわけではないが、知恵を絞れば対応は可能だ。廃炉作業にも長い期間を要することから、作業員が村に滞在することによる経済効果は長期的に持続すると考えられる。歴史的に見て、エネルギー源は石炭から石油、そして原子力と変遷してきた。かつての炭鉱の街は、石炭が盛んだった時代には石炭産業がなくなるとは想像もしていなかったが、現実はそうだった。例えば、北海道夕張市は、炭鉱が閉鎖されたことで主幹産業がなくなり、財政難に陥った。東日本大震災以降、原発を取り巻く状況は厳しさを増している。原発が国内で今後、新設されるとは考えられない。現存の原発もどんどん古くなり、いずれはなくなると思う。原発もいずれは何かで代わると考えた方がいい。それに備え原発なき将来を考える局面に差しかかっているのではないか。東海村について研究した成果を発表した際、聴いていた村民から反応がなく、脱原発後の村の将来についてオープンに議論できる雰囲気ではないと感じた。だが、そういう状態が長く続くと街づくりをする基礎体力がなくなる恐れがある。かつての炭鉱の街のようにならないためにも、原発なき村の将来を考える時期は、すでに来ていいる。〈ゆあさ・よういち〉1972年、千葉県松戸市生まれ。2013年度から関東学院大社会学部教授。専門分野は環境社会学。2017年度に東海村から支援を受けて「地域社会における脱原発のソフト・ランディングはどのようにすれば可能か」というテーマで原発なき村の将来を財政面から研究した。」



○今朝の東京新聞【私説・論説室から】に『叱ることができますか』と題する興味深いコラムが掲載されていたので、備忘録として以下に転載させて頂く。

先生「それでは皆さん、先週、課題にした宿題のノートを提出してください」

生徒「先生、私は宿題を終えた時点で使用目的を達成したものと判断し、ノートは遅滞なく廃棄しました。よって提出できません」

先生「なに？ そんなルール、誰が決めたんだ」

生徒「わが家の内部規則です」

先生「じゃあ、保護者であるお父さんかお母さんと話をしたい」

生徒「仕事が多忙につき、学校には来られません。両親から聞き取りをし、すべて私が窓口となって対応します」

先生「確かに宿題はやったんだな。問一の答えは、覚えているだろう」

生徒「資料がないため定かではありません」

先生「全く！ では、年間の継続課題としている生活記録(日記)の提出を」

生徒「はい」

先生「今度は素直だな。よしよし…ん？ 日付と天気以外真っ黒じゃないか」

生徒「個人情報に触れる部分なので、すべて黒塗りとさせていただきました」

「桜を見る会」疑惑を巡る野党の追及に対して答弁を続けている、安倍首相、菅官房長官、官僚の皆さん。どこかの学校にこんな生徒がいたとしたら叱れますか。子どもたちもしっかり見えますよ。(署名記事)

[2020年2月6日(木)]

○昨日の逗子市でののがけ崩れ災害(事故)について、神奈川新聞が2月5日22時24分に発信したカナロコと云うネットニュースを以下に転載させて頂く。「5日午前8時ごろ、逗子市池子2丁目の市道脇にある斜面が崩落したと通行人から119番通報があった。付近を歩いていた同市在住の県立高校3年の女子生徒(18)が巻き込まれ、病院に搬送されたが死亡が確認された。県警は女子生徒の死因や、崩落の原因などを調べている。現場は住宅街で、ほかにけが人などはいなかった。市や市消防本部によると、崩れたのは1950～60年代に造成されたとみられる高さ約15mのマンション下の斜面で、下部の6～7m分は石積みの擁壁で補強されている。擁壁上の斜面が幅約7m、高さ約6mにわたって崩落し、下の市道には幅13mにわたり42.5立方メー





トルの土砂(重さ約70トン)が最大約2m積もった。斜面の一部が大きくえぐれガードレールが折れ曲がるなどした。崩落した斜面は、県が2011年に土砂災害警戒区域に指定しており、市はハザードマップやホームページに掲載して周知していた。建築制限などはないという。市によると、私有地のため安全対策などは所有者が行う。斜面下の市道を管理する市は「崩落などの危険の予兆は特に把握していなかった」と説明。逗子署も、昨年秋の台風でも崩落などの被害はなかったとしている。斜面はマンション住民が共同で所有しているとみられ、市は同日午後1時にマンション管理会社と面会し、現場の安全確認や今後の安全確保策を要望した。市は「今後、安全対策工事の実施を働きかける」としている。現場は京急線神武寺駅から東へ約300mの住宅やマンションなどが立ち並ぶ地域。市は崩落直後から現場付近約250mを全面通行止めとしており、通行再開時期は未定という。」  
 TV報道で見て、崩壊斜面が余りにも急傾斜なのに疑問を感じ、グーグルマップで現地を確認してみた。急傾斜の崖上に大した補強もなしに、崖の際までマンションを建設することが認可されるものだろうか。今後の成り行きに注目していきたい。



道路脇の斜面が崩れた現場を調べる消防隊員ら  
 =6日午前11時10分ごろ、逗子市池子2丁目



グーグルマップより



逗子市ハザードマップより

- 今朝の東京新聞筆洗のコラムを以下に転載させて頂きたい。「くわたしは受諾を誓います／さまざまに異なる／見解の違いがあればこそ／アメリカであることを」。米国の詩人ジャネット・ワンの「自由」(訳・柳瀬尚紀)の一部である▼アジア系の女性で、主に児童向けの作品を手掛けている方である。意見の違いは違いとして認め合い、その上でくひとつの国民くになろう。協調の詩である▼くアメリカであることを。昨日のトランプ米大統領の一般教書演説の光景に詩とは別の「アメリカ」を見る思いである。そしてため息をつく。これが今の「アメリカ」である▼こんな光景である。演説前、民主党のペロシ下院議長が手を差し出し握手を求める。大統領は無視し立ち去る。弾劾裁判にかけた民主党への怒りだろうが極めて無礼な態度である。演説後、今度はペロシさんが持っていた大統領演説コピーをびりびりと破り捨てる。演説内容が許せなかったにせよこれもまた無礼である。く見解の違いがあればこそくとは程遠く、あつたのは意見が異なる者同士の憎しみばかりである▼大統領の一般教書演説を英語で「ステイト・オブ・ユニオン」と呼ぶのは合衆国憲法と関係がある。「大統領は随時、連邦議会に対し『連邦の状況』を報告する」と義務付けられている▼ユニオンには結束の意味もあるが、確かに一般教書演説の光景は結束の状況をあまさず報告した。危機的であると。」  
 TV この問題の場面は、昨日のTV報道でしっかり拝見させていただいた。これが今のアメリカなのかと。

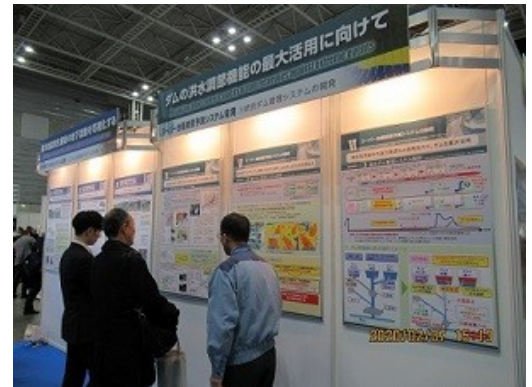
[2020年2月8日(土)]

- 今朝の東京新聞社説『新型肺炎と改憲 不安に付け込む悪質さ』を以下に転載させて頂く。「新型肺炎の感染拡大に伴い、自民党内で改憲による緊急事態条項の創設を求める意見が相次いでいる。停滞する改憲論議に弾みをつける狙いだろうが、国民の不安に乗じるのは悪質ではないのか。新型肺炎の感染拡大を受けて、緊急事態条項を創設する改憲論の口火を切ったのは、自民党の伊吹文明元衆院議長。1月30日の二階派会合で、「緊急事態の一つの例だ。憲法改正の大きな実験台と考えた方がいいかもしれない」と述べた。翌31日に開かれた同党の新型肺炎に関する対策本部でも出席者から「憲法改正への理解を国民に求めるべきだ」との声が出た。2月1日には下村博文党選対委員長が講演で「人権も大事だが、公共の福祉も大事だ。直接関係ないかもしれないが(国会での)議論のきっかけにすべきではないか」と述べた。その理屈はこうだ。現行憲法下では、人権への配慮から感染拡大を防ぐための強制措置に限界がある。だから憲法に緊急事態条項を設け、武力侵攻や大規模災害などの緊急事態には内閣に権限を集中させ、国民の権利を一時的に制限することも必



要だ、と。2012年に発表した自民党改憲草案は緊急事態の際、内閣に法律と同じ効力を持つ政令の制定権を認める条項を明記した。緊急事態条項創設は安倍晋三首相が実現を目指す改憲4項目の1つだ。ただ、政府は1月28日、新型肺炎を感染症法上の「指定感染症」とする政令を閣議決定し、前倒しで施行した。現行法でも空港や港の検疫で検査や診察を指示したり、感染者の強制入院や就業制限もできる、入管難民法に基づいて入国拒否も可能だ。政府の対応に不備があるとしたら、憲法の問題ではなく、法律の運用や政府の姿勢の問題だ。改憲しなければ、国民の命や暮らしが守れない切迫した状況でないにもかかわらず、国民の不安に乗じて改憲論議を強引に進めようというのは到底、看過できない。首相は新型肺炎を巡り「先手先手で現行法制で対応している」と述べてはいるが、国民の不安に乗じる形での改憲論浮上は、任期中の改憲実現を悲願とする首相自身の姿勢と無関係ではなからう。首相の前のめりの姿勢こそが論議を歪めてはいないか。新型肺炎と改憲とは本来、何の関係もない。国会では新型肺炎対策など、改憲よりも優先して議論すべき課題が山積している。拙速な改憲論議は避けねばならない。」  
「改憲による緊急事態条項の創設」を許したら品格に欠ける現政権は何を始めるか判ったものではない。それよりも、現政権は現憲法によってしっかりと監視されなければならない。

○昨日は横浜みなとみらい地区で開催されている『震災対策技術展』に参加させて頂いた。震災対策だけでなく、最近では、あらゆる自然災害を対象に、科学技術を駆使したハードとソフト両面からの対策法が展示されていて、大変有意義な催しと交流の場となっている。特に最近では、大きな台風災害が頻発したこともあり、水害や土砂災害に関する防災対策の展示が増えているようにも見受けられる。今回特に注目したのは、京大防災研・日本気象協会・水資源機構による統合ダム管理システム開発の研究開発チームが提示した『スーパー台風被害予測システムの開発』のパネル展示であった。アンサンブル降雨予測によって精度よくダムの事前放流を行い、放流した水量を発電に活かしつつ下流を水害から守ろうとする試みで、もし今年の台風19号に活用されていれば、さぞかし有効であったろうと思われた。また、気象庁のブースでは『気象情報を活用して早めの避難を～大雨などの時間帯を一目で確認できます～』と題する展示が行われていた。現状では気象情報を受け取った自治体が避難勧告や避難指示を出すタイミングに戸惑いがある、避難行動が後手に回ることが多かったが、もし気象庁が、緊急地震速報と同じように、豪雨の緊急アラームを発することができれば、地元自治体は避難勧告の発令を決断しやすくなるのではないかと思われた。同時に開催されていた講演会の中では、日本地震工学会の『直下地震と地震防災』を拝聴させて頂いた。名古屋大学の武村雅之氏が『大正12年関東大震災と復興のもつ現代的意味』の中で強調しておられたのは、関東大震災の壊滅的被害の後に、後藤新平が素晴らしい復興計画を立案したこと、予算を削減されながらも、主要道路の拡幅や道路橋の耐震不燃化を中核とした防災都市が完成されつつあったこと、その後、戦災で再び東京は大きな被害を蒙ったが、その復興過程では“とりあえず”との名のもとに、経済復興を優先した無計画なビル乱立や首都高速道路が従前の復興計画を台無しにしてしまい、東京は再び直下地震の脅威に晒されてしまったことであった。会場を出て横浜港に目をやると、新型コロナウイルス集団感染で注目されているクルーズ船ダイヤモンドプリンセス号が大黒埠頭に停泊している姿が、ベイブリッジの向こうに小さく見えた。



横浜みなとみらい地区で開催された『震災対策技術展』の展示風景



『直下地震と地震防災』について講演する名大の武村雅之氏



横浜みなとみらい地区から見た大黒埠頭のクルーズ船

[2020年2月12日(水)]

○昨日、野村克也さん急逝のニュースが入り、今朝の新聞から当時を偲んだ。スポーツ報知が報じた『野村克



也さん急逝…戦後初の3冠王からID野球 愛のあるボヤキもう聞けない』と題する記事からその一部を転載させて頂く。「戦後初の3冠王となり、指導者としても3度の日本一に輝いた名将野村克也さんが11日午前3時半、虚血性心不全のため死去した。84歳だった。南海(現ソフトバンク)で捕手兼任監督を務め、ヤクルト、阪神、楽天を指揮。「月見草」「生涯一捕手」「ID野球」「再生工場」に“ぼやき節”。多くのフレーズに彩られた野球人生は日本のプロ野球史に多大な足跡を残した。(途中略) 日本海に面する京都・網野町(現、京丹後市)の出身。3歳の時に父、要市さんが日中戦争で戦死。母、ふみさんが極貧に耐え、女手一つで育ててくれた。「少年時代は俺だけユニホームを買ってもらえず、試合に出てたよ。今に見てると」。小3から中3まで新聞配達で家計を助けた。峰山高から1954年、契約金0円のテスト生で南海入団。「肩が弱くて、遠投では先輩が『もう少し前で投げていいよ』と言ってくれて合格できた」。1年目は主にブルペン捕手だったが、オフに戦力外を打診された。「生きていてもしょうがないから南海電車で飛び込んで死にますと言ったんだ」これで契約延長されると、3年目からレギュラー捕手に。1965年には戦後初の3冠王。1970年から兼任監督を務めた。1975年に通算600本塁打を達成すると「王や長嶋がヒマワリなら俺はひっそりと日本海に咲く月見草」と名言を残した。大きく報道してもらおうと、1ヵ月前から考えていた談話。常にスポットライトを浴びる「ON」に対する反骨心こそが原動力だった。「生涯一捕手」を貫き、ロッテ、西武と渡り歩き、1980年に45歳で現役引退した。(以下略)」次に東京新聞からも、記事の一部『クイック、抑え…残した知恵』を以下に転載させて頂きたい。

「野村さんは入団4年目の1957年に30本塁打を放ち、本塁打王のタイトルを獲得した。しかし翌年から技術的な壁にぶつかり成績が急降下する。そこがターニングポイントになった。どうしてもカーブが打てない。練習しても打率が上がらない。そこで「ヤマを張る」ことに活路を見いだした。「ヤマを張るのはプロとして恥ずかしい。だが、『ヤマ勘』も根拠があれば『読み』になる」と、必死に投手の癖や配球の傾向を探った。後年、野村さんは打者を4つのタイプに分類している。A型=直球に重点を置きながら変化球にも対応する。B型=内角か外角、打つコースを決める。C型=右翼か左翼か、打つ方向を決める。D型=球種にヤマを張る。自身を「典型的なD型だった」と評した野村さんは、磨いた読みで本塁打を量産。1961年から8年連続本塁打王に輝くなど歴代2位の657本塁打を記録した。「野球センスのない自分がここまで来られたのは、知恵と創意工夫のおかげ」と話す姿に矜持が見えた。集中力を乱すために打者に話し掛ける「ささやき戦術」、投手に素早く投げさせて盗塁を阻止する「クイックモーション」を始めるなど、捕手でも才能を発揮した野村さんは指導者としても輝いた。南海の兼任監督時代も含めて5度のリーグ優勝と3度の日本一に輝く。選手の傾向をデータとして活用し、「ID野球」を確立させた。「弱者の戦略は適材適所」として選手を活用し、「再生工場」の異名をとった。例えば、南海時代の1976年、力の衰えてきた江夏豊をトレードで獲得。抑えに転向させた。血行障害を起こしていた江夏は完投こそ無理だったが、短いイニングなら万全だった。当時は抑え投手という概念がほとんどない時代。嫌がる江夏を「これから抑え投手が重要になる時代が来る。ストッパーの先駆者として革命を起こさないか」と説得。その後の野球界に影響を与えた。「叱ると褒めるは同義語」と、時に厳しく、時に丁寧に選手を指導した。古田敦也を筆頭に古くは江本孟紀ら、最近では稲葉篤紀に吉井理人に石井一久、宮本慎也、田中将大ら、球界に数多くのまな弟子を残したのは野村さんならではの存在だった。(署名記事) 福岡で育った少年時代、父に連れられてよく平和台球場に通った。三原脩監督率いる西鉄ライオンズには豊田、中西、大下と云うクリーンナップがいて、投手陣には稲尾がいた。そして宿敵の南海ホークスには杉浦一野村のバッテリーがいた。その当時のパリーグには野村や中西のように40本も50本もホームランを打つ強打者と、稲尾や杉浦のように30勝や40勝もする投手がいて、王、長嶋のジャイアンツよりも野性味に富んでいたように思われる。また、南海ホークスの緑色や阪急ブレーブスの真黒のユニホームも魅力的で、今でも目に焼き付いている。思い出多い野村克也氏のご冥福をお祈りしている。



1965年11月、3冠王を獲得しカレンダ―撮影で笑顔を見せる野村さん(スポーツ報知)

**野村克也さんの成績**

年度	球団	試合	打率	本塁打	打点
1954	南海	9	.000	0	0
56	南海	129	.252	7	54
57	南海	132	.302	30	94
58	南海	120	.253	21	79
59	南海	132	.263	21	78
60	南海	124	.291	29	88
61	南海	136	.296	29	89
62	南海	133	.309	44	104
63	南海	150	.291	52	135
64	南海	148	.262	41	115
65	南海	136	.320	42	110
66	南海	133	.312	34	97
67	南海	133	.305	35	100
68	南海	133	.260	38	99
69	南海	106	.245	22	52
70	南海	130	.295	42	114
71	南海	127	.281	29	83
72	南海	129	.292	35	101
73	南海	129	.309	28	96
74	南海	83	.211	12	45
75	南海	129	.266	28	92
76	南海	119	.273	10	57
77	南海	127	.213	16	58
78	南海	64	.226	3	12
79	南海	74	.222	5	22
80	南海	52	.217	4	14
計26年					3017.277 657 1988



**野村克也さんの成績**

年度	球団	試合	勝利	敗戦	引分	勝率
1970	南海	130	69	57	4	0.548
71	南海	130	61	65	4	0.484
72	南海	130	65	61	4	0.516
73	南海	130	68	58	4	0.540
74	南海	130	59	55	16	0.518
75	南海	130	67	65	8	0.467
76	南海	130	71	56	3	0.559
77	南海	128	62	54	12	0.534
90	阪神	130	58	72	0	0.446
91	阪神	132	67	63	2	0.515
92	阪神	131	69	61	1	0.531
93	阪神	132	80	50	2	0.615
94	阪神	130	62	68	0	0.477
95	阪神	130	62	48	0	0.631
96	阪神	130	61	69	0	0.469
97	阪神	137	83	52	2	0.615
98	阪神	135	66	69	0	0.489
99	阪神	135	55	80	0	0.407
2000	阪神	136	57	78	1	0.422
01	阪神	140	57	80	3	0.416
06	阪神	136	47	85	4	0.356
07	阪神	144	67	75	2	0.472
08	阪神	144	65	76	3	0.461
09	阪神	144	77	66	1	0.538
計24年					3204.1565.1563	76.500

野村克也氏の戦績(東京新聞)